

## メールマガジン5月(67号)特集

### ●テーマ「クラブのほしい情報とは」

クラブを長く続けていくためには、「質の向上」が必要だといわれています。クラブ自身が自分の力で問題解決したり、解決能力を高めたりするために、「情報」という材料を集めたり、情報への「アクセス力」が求められています。そこで、クラブではどのような情報を必要とし、アクセスしているのか、その工夫や今後の課題など、座談会形式でうかがいました。

### ●参加者紹介

#### 篠島幹昌さん(ふじみ野ふあいぐるクラブ会長兼クラブマネジャー)

埼玉県南東部にある人口10万7千人のふじみ野市にある総合型地域スポーツクラブの会長とクラブマネジャーを兼務。行政や地元体協と連携をとりあいながら、設立3年目になる。会員数は平成23年3月末時点で約400人。日本の著名なIT企業での勤務経験があり、知識豊富な論客。自身はバスケットボールの出身だが、クラブでは多種目・多志向で、小中学生及びその親世代を主な対象とし、地域にスポーツの新しい環境をつくろうとしている。

#### 鈴木奈保美さん(こやのエンジョイくらぶ事務局長)

東京都葛飾区内第一号総合型地域スポーツクラブの事務局長。平成15年度から区が着手。じっくりと基盤を整え、お試しキャンペーンや交流大会を重ねて地域の理解を促し、平成20年9月設立。高齢者中心に会員数は右肩上がりに増え、300人を超えた。持ち前のパワーと明るさ、アイデアと行動力で、クラブの運営を全面的に支えている。

#### 加藤裕之さん(埼玉県体育協会クラブ育成アドバイザー)

クラブ育成アドバイザーになって7年目。前職は、埼玉県北本市にある総合型地域スポーツクラブ「NPO法人あさひスポーツ・文化クラブ」のクラブマネジャー。民間スポーツクラブ、行政と様々な経験をし、現在はアドバイザーとして埼玉県内にある総合型地域スポーツクラブの支援をしている。これまでに35クラブ程のクラブ創設に携わってきた。豊富な情報をもち県内はもちろん県外からの問い合わせも多く、全国から頼られているアドバイザーである。

<座談会実施日:平成23年4月27日(木)>



向かって右から、鈴木さん、篠島さん、加藤さん

## 東北大震災関連情報

一さっそくですが、東日本大震災に直面して、ご自身で思ったこと、取り組んだこと、これからしたいことなど、お話しいただけますか。

**【加藤】**大震災後、被災地のアドバイザーや関係者にメールをし、現地の状況について何件か返信をもらいました。埼玉県内では、動きの早いクラブの有志で、何かしらの支援を継続的に行っていこうということになりました。

ちょうど県内に福島県双葉町の方々が避難してこられたので、「双葉ふれあいクラブ」の関係者を通して支援の内容を検討している段階で、できることからやっっていこうとしています。避難所は高齢者の方が多いので、その場で体を動かせるようなプログラムに指導者を派遣して教室ができればと思っています。今後は埼玉県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会としても支援を模索中です。

**【篠島】**被災された方々に対して、クラブとして何かしたいと思っているものの、一方的な支援は迷惑ではないかとの思いもあり、具体的なアクションはこれからになります。

加藤さんもおっしゃった双葉ふれあいクラブのお話など、総合型クラブのネットワークを通じ支援していきこうという動きには大変共感しています。今後そういった総合型クラブのネットワークを通じた支援活動には協力できたらと思います。

我々は特に子ども中心のクラブなので、スポーツが本来もっている「元気になる・明るくする」力で子どもを明るくし、子どもが明るくなることで、大人も明るくなり、みんなが元気になるようになればいいと思います。自粛より動き出して、スポーツを通して、できることをやっていきたいと思っています。

**【鈴木】**私たちのクラブでは、高齢者の方も多く、震災後、家に籠ってしまわないよう、出来る限り、平常通りのプログラム運営をしていこうと心がけました。クラブに来て「こんなことをしていて、いいのかしら」という声もありましたが、「こんな時だからこそ、リフレッシュすることも大切ですよ。」と声をかけました。クラブではクラブハウスの他、各プログラムでも義援金を募り、たくさんの方にご協力いただきました。今後も、継続的に行っていきたいと思っています。

日本体育協会の公認クラブマネジャー講習会の同

期の方の中には、被災地にお住まいの方もいましたが、状況がわからずメールを送っていいものか迷っていたところ、他の同期の方から転送メールが来て、元気であることがわかり、連絡をすることが出来ました。このような時こそ、全国的なネットワークがあるのは心強いです。仲間同士がつながるような情報をマメに流してくれる方がいて助かりました。

## クラブのほしい情報は段階とともに変わる

**【篠島】**育成指定クラブ期間の最初の頃は、「総合型地域スポーツクラブ」がどのようなものなのかイメージが湧かなかったので、“総合型地域スポーツクラブとは何か”を知る目的で、一般書籍や講習会資料、インターネット等で情報を集めました。

育成指定クラブ2年目となると、次に自分達はどんなクラブにしていきたいのか、また事業の仕組みや体制をどうやってつくるべきなのか等を検討するために、他のクラブに訪問して直接聞いたりして情報を集めました。具体的にはバスケットボールという専門性を柱にすることを考えていたので「ピボットフット」(東京都大田区)の桑田さんにお会いしお話をうかがったり、地域が一体になってクラブづくりをしている「ごうどスポーツクラブ」(岐阜県神戸市)さんに視察に行き、当時会長をされていた小倉さんからいろいろと助言をいただきました。

また、いよいよ設立という際には、規約等に関するさらに具体的な情報が必要になりました。必要な情報というのは、時間とともに段階的に変わっていくのではないかと思います。



「ふじみ野ふあいぶるクラブ」パンフレット(表紙)

【鈴木】葛飾区では、「かつしか地域スポーツクラブ」と称して、独自に認定制度を取り、クラブ育成を支援する仕組み作りをしています。生涯スポーツ課には、クラブ育成の担当の方がいますので、何かあれば、まずはそちらに相談します。設立当初は、書類の書き方など、基本から指導してもらい、「育ててもらった」感じです。今では、だいぶ事務力は育ちましたが、何かあれば「どうでしょうか」と相談して、随時、必要な情報を得ています。

### 「Yahoo 先生、Google 先生に聞いてみよう！」

【鈴木】例えば、クラブの広報紙を作る場合、“どのような広報紙がみんなに見てもらえるのか”という問題意識から、日本体育協会のホームページ内にある「SCステーション（Q&A集）」を情報源に、「広報」の部分を見たりしています。

また、広報紙作成上の技術的な部分、例えば、この部分に文章やイラストを入れ込みたい時はどうしたらいいか、という場面では、ワードの使い方を検索したり、他のホームページを調べて参考にしたりしています。

そういった意味での「私はこうしたい」ということは、ほとんどインターネットで情報が得られています。インターネットは、困ったことを素直に、複数のキーワードを入れて検索すると、それに対する答えが出てくるツールです。「Yahoo 先生やGoogle 先生に聞いてみよう！」と仕事でもよく言っています（笑）。

【篠島】私も日頃は、基本的にインターネットで情報収集をしています。

【加藤】インターネットでは、でてこない情報がほとんどないかと思います。インターネットで質問できるサイトがありますが、当たり前のことを聞くと、答えは「Google」と返ってきます（笑）。「当たり前のことを聞くな（自分で探せ）」という意味です。

マネジメントのことも、キーワードを入れればインターネットでほとんどの情報は得られます。

広報やチラシについても、インターネットで調べれば、参考になるチラシなどもでてくるので自分でそれらを拾いながらアレンジしてチラシを作っていくのも一つの手かだと思います。

### ほしいピンポイント情報は少ない

【鈴木】個人的に知りたいことは、インターネットを駆使して、必要な情報を得られますが、実際のクラブ運営に関することや地域の情報などは、行政側からも情報提供を受けています。

区のクラブ育成に関しては、例えば、会場使用の優先利用や使用料免除など運営上必要なものを支援してもらうなど、いろいろな面でしっかりしたサポートを受けている感じです。

【篠島】ほしい情報を探るとき、インターネットでは「広い答え」はありますが、本当にほしい部分をピンポイントで得られることは意外に少ないし、そのような情報自体も少ないと思います。

設立後3年目の今は、指定管理者の申請に関する情報などが必要になっていますが、申請時の留意点・ポイントなどの情報はあまりありません。

また、クラブでは市のスポーツ振興を担う活動をしたいと思っているため、設立後は、地域が何を求めているか、現在の学校部活動の状況など、という情報が必要になりましたが、なかなか入手できず行政への協力を求めました。

また「データがないのであれば共同で調べませんか」と投げかけるアプローチもするようにしています。行政側にもデータがない場合は、地域スポーツ振興を目的とした必要なデータということを行政側と意識共有し、「こちらがやるから、やりませんか」と連携を働きかけることも必要になってくるのではないかと思います。



「こやのエンジョイくらぶ」パンフレット(表紙)



## 行政がもつ情報と調整できる枠組み・仕組み

【鈴木】区のスポーツ振興計画では「総合型地域スポーツクラブの設立育成」を重点施策の3つの柱の1つとしています。

また、区はスポーツ指導員の登録制度をとっていて、そこから指導者の紹介をしてもらったり、区体育協会との連携をサポートしてもらったりしています。いろいろな面で、行政側の仕組み作りが徹底されているので、クラブを取り巻く環境は、恵まれているかもしれませんね。

【加藤】行政がそこまで考えて実際に支援してくれるのは素晴らしいことです。

全国の市区町村が同じように支援してくれれば、たくさんのクラブができますね。

【篠島】ふじみ野市では、現在のところ市のスポーツ振興計画がありません。クラブが正式設立する当初は、とりあえず総合型地域スポーツクラブが設立すればいい、という感がありました。現在では協働のスタンスで関係づくりも進み、最近ではスポーツ振興審議会の設置について議会で取り上げられ、総合型地域スポーツクラブの継続的な（後方）支援についても考えてられています。

主体になって動くのはクラブですが、行政には大きな枠組みや仕組みをつくってほしいと思います。

## 専門的な知識のある人に相談したい

【篠島】埼玉県にはスポーツリーダーバンクがあって相談したこともあります。その種目指導者がいなくなったりしました。また、ピンポイントの情報を得るのはなかなか難しいのではないのでしょうか。

インターネットなどでアクセスしやすい情報はそれなりの情報であり、たどり着きにくい情報については、より専門性をもっている人が導いてくれたらと思ったことがあります。そのような場合は、アドバイザーの加藤さん（出席者）に相談しています。

僕達の夢としては、欧州のようなクラブを目指していきたいです。"クラブが付加価値をもっていないと、本当の意味で経済的に自立したクラブにならない"と考えて、今、専門性を持つ人材面の連携確保に取り組んでいます。

クラブの中で専門的な人材の育成をするのは、なかなか難しいので、専門性の高い人と連携できるように指導者組織の人材情報やノウハウがナレッジベース

（知識のデータベース）であってもいいのではないかと思います。

クラブの運営では、「どうしたらいいものか」という困った場面は、ある日突然遭遇します。インターネットで調べきれないものや、未だ事例がないものなどが、現在のほしい情報であり、専門的な知識のある人に相談したいです。

## 「クラブが気付いていない」情報提供がアドバイザーの役割

【加藤】アドバイザーは、目的に沿った具体的な情報やノウハウの情報は県内であればたいに把握しています。他都道府県の情報であってもアドバイザーのネットワークから得られることができます。逆に、他県のアドバイザーからの問い合わせもあります。

ほしい情報を問題意識と自助努力で得て、成長できるクラブもありますが、クラブの方から電話を頂いたりして頼られるのはアドバイザー冥利につきます。何よりも、“インターネットで拾えない情報をアドバイザーがどう提供できるか”、が大事であると考えています。

例えば、政策や toto 助成に関する情報、クラブが気付いていない情報、助成金の活用などがあります。一例ですが、自己資金でクラブハウスを建てようとしたクラブが、少し待てば toto 助成を使えるタイミングだったので、こちらからクラブに情報提供を行い、その助成を上手く活用することができました。

アドバイザーや広域スポーツセンターは、そのような情報を得るのが早いので、定期的に連絡をすれば生きた情報が得られると思います。クラブの関係者はアドバイザーや広域スポーツセンターを上手く活用してください。



加藤裕之さん（埼玉県クラブ育成アドバイザー）

## 組織化を広く支えるボランティアとの夢の共有

【加藤】一方で事務局主導になりすぎると、「事務局に任せておけばいい」となってしまう、事務局以外の方が力を発揮しなくなります。

そこは、「運営委員会は、しっかり運営委員さんが主体でやってください」と言って、運営委員会を活かす形をうまく作らないとなりません。バランスの問題です。

創設時には特に「女性や若者も運営委員に入れてくださいね」と積極的に伝えていきます。

【篠島】私も専従の有給スタッフで、もう1人専従でパート・アルバイトの人がいます。後はボランティアの人ですが、「みんなで話し合いながら、つくっていきましょう」というのが、ボランティアの人の一つのやりがいになっている要素のようにも感じます。

ただ、それぞれの楽しみ方や温度差があります。仕事としてやっていきたい人は、よりクラブを成長・発展させて新たなスタッフを増やしたい思いがありますが、ボランティアのやりがいの部分をクラブに活かしていくことも大事です。



篠島幹昌さん(ふじみ野ふあいぶるクラブ会長  
兼マネジャー)

当初は、「自立や受益者負担」の仕組みは、専従スタッフ主導でつくっていく必要があると思っていましたが、クラブを広く支えている部分は、ボランティアの方々がうまくやっていると感じています。それぞれ皆さん言っていることは正論ですし、それぞれがクラブを思っていたり、やる気があることです。それを活かさなければ偏った活動になるとも思います。

その受け入れ方や活かし方など手探りですが、そういった一人ひとりの想いを活かせるようなクラブづく

りを進めていきたいと思っています。ボランティアの方々にもやりがいをもってもらう場でない、必要な時にクラブは助けてもらえません。

夢に向かって、大きなやりがいが1つになればと思います。ノウハウスキルが高い部分にはお金を出すなど、関わり方の複雑性もあり、現実には難しい事も多いものの、それぞれの役割をクラブ全体で育てていければいいと思います。同じ夢や目標を共有して、「地域のため」と思ってできないかと理想を追っています。

## 役員・スタッフに必要な共通言語と継続学習

＜文末(P 7)資料参照＞

クラブ運営時に各種情報(源)をどの程度利用しているかクラブ関係者に尋ねた結果を、会員数100人以下のクラブと、300人超のクラブで比較してみた。

会員数100人以下のクラブでは「講習会の資料」が比較的多い。300人超のクラブでは「インターネット検索」も多いが、「クラブ内の人」が100人以下のクラブに比べて多くみられた。ここでの「クラブ内の人」とは、スタッフや役員、時には会員が該当する。このようなクラブ内部の人からすぐに情報を得たり相談できたりするクラブは会員数が多い傾向にある。

つまり、クラブ内人材の全体的な育成が、クラブ成長・発展の基盤づくりになるとも読み取れる。

【加藤】クラブ内で温度差があるクラブでは、クラブマネジャーだけでなく、クラブ内の他の人にも、クラブマネジャー養成講習会などに参加してもらいたいと思います。クラブ内で1人でも多くの人に参加して、共通言語で話すことができるようになれば変化があるかもしれません。

【鈴木】講習会などの情報提供はしていますが、みなさんお忙しいのか、あまり関心がないようです。

【加藤】既にマネジャーのネットワーク等に相談しているかもしれませんが、同じマネジャー同士で同じような境遇の人に相談するのもいいですね。

役員の場合は世代交代も必要で、その仕組みをつくることも考えられます。次の世代を育てるために、あえて世代交代するような制度をつくり実行していくことも必要ですね。

## ビジョンや課題を明確に。時には意識的に情報を遮断して、頭をクリアにすることも必要

**【篠島】**「情報をより活用するために」という意味で言えば、情報が氾濫している世の中なので、自分達には何か必要なのかは、クラブのビジョンや仕組み（スキル含め）を明確に持つことが、情報をより活かすことができるポイントになると思います。

例えば、地域のスポーツ振興に役立ちたいと考えていけば、現状の地域行政の課題が情報として入ってきます。具体的には、“行政では公共性の高いスポーツ振興事業の予算が削減され受け皿を探している”、といったことがわかり、行政ができない部分をクラブでどのように担えるようになるかを考え、その情報を集めていきます。

学校部活動でも課題やニーズがあるので、それを情報として集め、自分達のクラブで取り込み、仕組みやプログラムにしていこうと考えていくようにしています。

**【鈴木】**私たちのクラブは、年配の方を中心に活動していますが、将来的には、子どもたちや若者、子育て世代など、多世代に向けて活動していきたいと考えています。

「スポーツを通じた地域コミュニティ」が目標です。そのために少しずつ成長していけるように、じっくり取り組んでいきたいと考えています。



鈴木奈保美さん(こやのエンジョイくらぶ事務局長)

**【加藤】**インターネットを使うと、情報がたくさんあり過ぎるくらいあります。情報を取捨選択することが大事です。いろいろな情報がバーっとでてきても自分の考えで選ぶこと。

また、自分の経験からですが、情報を多く取り過ぎると思考がマイナスになったり、考える力がなくなっ

て傍観するだけになったりします。頭をクリアにして一切情報をとらない状態を意識的につくることも、今の時代には必要かもしれません。

## <番外編>

### 有給マネジャーのいるクラブは、会員数も増える

**【鈴木】**「事務局業務」について、いろいろな考え方があるとと思いますが、いかがでしょうか。

「仕事量が、事務局(一人)に集中すること」や「有給」についてなど。会員数増加に伴って仕事量も膨大になりますが、実際問題では、なかなか分散して担当するのは、難しいと感じています。

**【加藤】**埼玉県で言えば、会員の受益者負担による会費等で事務局員の給料を支払うという考え方は当たり前になっています。

会員管理は会員100~200人程度まではなんとかボランティアでできても、300人を超えるとボランティアでやるのは難しいです。

マネジャーや事務局員は、会員が増えれば必ず必要になってきます。また、有給のマネジャー等を設置しているクラブは、会員数やプログラムが確実に増えていきますね。

**【鈴木】**そうなんです。何か、新しいことに挑戦するときは、プラスアルファの力が必要になりますからね。

**【篠島】**ボランティアは有償もありますが、無償で奉仕するのが当たり前という感覚が世代によってあり、同じテーブルにつくと価値観や温度差の違いが交差することもしばしばあります。雰囲気によっては、意欲のある人も「余計なことをするのはやめよう」になってしまいます。

事務局が会員さんへの思いをもって、きめ細かく対応することも、それがきっかけとなり口コミでクラブの会員数は増えていくものです。事務局に有給の方がいれば、よりきめ細かくできて、クラブ全体のモチベーションアップにもつながると思います。

一本日は、活発な議論と貴重なご意見を多数いただき、ありがとうございました。

(終了)

<資料>

Q クラブを運営するうえで、以下のような情報(源)を、あなたはどの程度利用していますか。

(2009年度クラブミーティング時、参加者対象アンケート結果より)

(上図)会員数 300 人超のクラブ(46)

(下図)会員数 100 人以下のクラブ(77)

